

桑名市議会議長
南澤幸美様

班長 都市経済委員会委員長 畑 紀子

議会いきいきトーク実施結果報告書

開催日時	令和3年4月23日(金) 13時30分 ~ 15時30分		
開催場所	多度地区市民センター3階第2教室		
出席議員	班長	畑 紀子	
	司会	畑 紀子	記録者 近藤 浩
	議員：(委員長)畑紀子、(副委員長)成田久美子、佐藤肇、伊藤恵一、松田正美、辻内裕也、近藤浩、仮屋武人 議員参加： 富田薫 9名		
参加人数	相手方： 三重県宅地建物取引業協会桑名支部 (支部長)伊藤実氏 (副支部長)佐藤浩氏 (幹事)水谷嘉彦氏、石原仁司氏、加藤和代氏、川瀬浩氏 (相談役)鵜飼要氏 7名		
いきいきトークの概要	畑班長の挨拶の後、支部事務局から配布資料の説明、伊藤支部長から今回のいきいきトークの依頼主旨説明や協会活動の紹介があった。 その後、本題に入り、伊藤支部長や出席の皆様から、桑名市の進める「空き家対策」についての課題や、空き家対策に対して桑名支部として協力できることについて、意見や要望があった。		
主な意見・要望	<ul style="list-style-type: none">・空き家バンク制度について、折角の制度が生かされていない。・空き家の調査はされたが、未回答が非常に多い。なぜ未回答なのかを調べないといけない。・空き家調査について、現地確認はされているが、職員による目視のみであり、市場性があるかどうかを見極める必要がある。市場価値のある「不動産」なのか、まったく価値のない「負動産」なのかを見ているのが問題である。・利用可能な空き家かどうかは、目視だけでは分からない。協会が職員による現地調査に同行し、市場価値を確認する手伝いをしたい。所有者も価値を知りたいはずである。少しでも利用者が増加するための協力は惜しまない。		

- ・市は人口減少によって空き家が増加するというが、そのところを分析しないとイケないのではないか
- ・空き家の社宅転用制度を作るのはよいが、効果は薄いのではないか。売買ならよいが、空き家自体はどれも古い物件が多く、賃借するには修繕工事が必要となるため、費用対効果の面からも社宅転用は進まないのではないか。
- ・空き家を増やさないためには、高齢者施策が重要である。総合的な施策によって空き家対策を進める必要がある。
- ・固定資産税について、解体すれば税が上がってしまう。他市のように一定の額を市で補助できる制度を作ってもらいたい。
- ・なぜ「特定空き家」になってしまったのかというところまで、きちんと分析する必要がある。また、特定空き家の認定のハードルを下げる必要もある。
- ・市街化調整区域の空き家について、様々な制限があるため活用できていない。本当に困っている市街化調整区域の空き家に対する施策を考えて欲しい。
- ・特に、市街化調整区域の空き家対策は重要であり、まちづくりのビジョンとして取り組んで欲しい。そのためには、条例を作り、しっかりと対策してもらいたい。
- ・解体工事に係る補助制度の周知が不十分である。強くアピールして欲しい。
- ・空き家対策の窓口について、一本化されていない。チラシには記載されているが、どこへ行けばよいか分かりづらい。
- ・空き家活用の相談会について、年1回では少なすぎる。困っているから相談会に来るのだから、機会を増やすことを考えて欲しい。
- ・空き家対策を国に任せておくのではなく、市が条例を制定するなどして取り組む必要がある。

【畑委員長】

本日お聞きした様々なご意見・ご要望を、当局側へ伝えるとともに、議会としても、しっかりと対応したいと思います。

備 考